

憂ナントセズ實ニ遺憾ト被存條道路ノ維持修繕ニ關シテ
 ハ市町村ハ勿論青年團、在郷軍人分會、消防組、婦人會等
 各種團體ノ眞摯ナル後援ヲ得テ道路愛護ニ係ル訓練ヲ爲シ
 自治公共ノ念ヲ涵養スルト共ニ他面交通ノ整理ト地方文化
 産業ノ興隆トニ資シタキ目的ヲ以テ今般道路愛護獎勵規程

ヲ制定シ本日縣報ヲ以テ告示相成候次第ニ付右様管内各種
 團體へ洩レナク周知セシメラレ實行ノ運ビニ立到ル様可然
 御取計相成度此段及通牒候也
 附記 學務部長、警察部長へノ依頼並各土木出張所長宛通

牒あるも省略す。

道路改良の經濟的効果に就て

守屋 秋 太郎

序 論 目 次

- 一、(兵庫縣) 二號國道
 自大阪府界(阪神國道)
 至神戸市
- 二、(滋賀縣) 同
 甲賀郡山内村地内(鈴鹿峠)
- 三、(岐阜縣) 八號國道
 自岐阜市(岐垣國道)
 至大垣市
- 四、(山梨縣) 同
 自南都留郡船津村
 至東八代郡金生村

- 五、(群馬縣) 九號國道
 自高崎市(以上昭和十一年九月號)
 至前橋市
- 六、(京都府) 府縣道
 久多京都線
- 七、(兵庫縣) 府縣道
 伊丹尼ヶ崎港線
- 八、(埼玉縣) 府縣道
 忍松山線
- 九、(千葉縣) 府縣道
 吉田大和田線
- 一〇、(青森縣) 府縣道
 弘前鱒ヶ澤線
- 一一、(福井縣) 府縣道
 米ノ浦武生線

- 一二、(鳥根縣) 府 縣道 今市杵築線
- 一三、(岡山縣) 府 縣道 岡山西大寺線
- 一四、(徳島縣) 府 縣道 立江日和佐線
- 一五、(高知縣) 府 縣道 宿毛字和島線
- 一六、(熊本縣) 府 縣道 宇土綱津線(以上昭和十一年十月號)
- 一七、(同) 二號國道 自飽託郡川尻町
至八代郡太田郷村
- 一八、(同) 府 縣道 人吉日奈久線
- 一九、(同) 府 縣道 隈庄出水町線
- 二〇、(同) 府 縣道 木山植木線
- 二一、(同) 府 縣道 河内植木線
- 二二、(宮崎縣) 三號國道 自宮崎市橋通五丁目
至同 市中村町二丁目
- 二三、(同) 同 自東臼杵郡岩脇村大字幸脇字幸本
至兒湯郡美々津町大字高松字上町
(以上昭和十一年十一月號)
- 二四、(同) 同 自東諸縣郡高岡町大字浦之名字小崎
至同 郡同 町大字浦之名字山下
- 二五、(同) 府 縣道 宮崎熊本線
(以上昭和十一年十二月號)
- 二六、(同) 府 縣道 椎葉細島港線
- 二七、(和歌山縣) 府 縣道 父鬼名手線(未記載)
- 二八、(同) 府 縣道 瀧神南部線(以上本月號)
- 二九、(同) 府 縣道 川上御坊線

- 三〇、(大阪府) 二號國道 自大阪市旭區内代町
至大阪府北河内郡樺葉村(京都府界)
- 三一、(同) 同 自大阪府此花區上福島中五丁目
至同 市西淀川區佃町(兵庫縣界)
(阪神國道)
- 三二、(同) 府 縣道 大阪池田線
- 三三、(同) 府 縣道 大阪枚岡線
- 三四、(同) 府 縣道 大阪奈良線
- 三五、(同) 府 縣道 天王寺堺線(未完)

(二六)

- 路線名 椎葉細島港線
- 改良區間 自東臼杵郡西郷村大字田代字古川
至西臼杵郡椎葉村大字下福良字上椎葉
- 延長 四七、四七六米
- 有效幅員 三米〇乃至三米五〇
- 路面構造 砂利道
- 工費 一、〇五〇、〇〇〇圓
- 竣功年月 昭和八年十二月
- 改良に因る效果
(一) 貨物運賃低下に因る利益。

一ヶ年 三五六、六五七圓

算出の基礎

移入品運賃低下 九一、七八七圓

移出品運賃低下 二六四、八七〇圓

イ、本路線は西臼杵郡椎葉村と細島港とを繋ぐ路線にして廣袤三十四方に亘る椎葉村を始め沿線各地の産業開發を使命とする重要な代表的産業道路なり。即ち本路線改良前に於ては椎葉諸塚西郷等の各村に於ける物資は殆ど搬出の方法なく殊に木材の如きは其の一部を川舟に依りて搬出せる外、其の大部分は自然の儘放任せられ、一面米穀類酒醬油味噌類の如き生活必需品の移入に當りては、駄馬又は人肩に依るの外搬入の途なく、其の經濟的不便不利は實に言語に絶するの狀態にして、加之交通の隔離に依りて受くる此地住民の文化的生活の損失に至りては、吾人の到底想像だに及ばざる状態に在り、且何れに出づるにしても峻険なる山徑を上下して近きも數里、遠きは十數里の距里有

するに依り運賃の増高すること甚しく、特に木材の如きは只空しく山林に遺棄するの外途なき状態なりしも、一度本道路の開通するに至るや、貨客自動車の利便に伴ひ其の經濟的活動は急速なる發展をみるに至れり。即ち木炭製造其の他森林開發等の事業は各地に開始せられ、此等生産品の價格は騰貴し、移入の價格又低下をみるに至れり。

今此等物貨の移出入運賃低下に依る利益をみるに次表の如く一ヶ年三五六、六五七圓の利益となれり。

移出品運賃低下に因る利益

種目	生産數量	金額	利益額	利益率
椎茸	一〇、二〇〇 斤	一七、〇〇〇 円	一七、〇〇〇 円	10%
木炭	二、四六、二六〇 賣	五、四八、〇〇〇	二、〇七、〇〇〇	三三
木材	五、三九六 立方米	一、〇五、一〇〇	一〇、一六、〇〇〇	五〇
栗實	九、四八五 石	九、四八、五〇〇	一、八、九七〇	二〇
茶實	一、三六三 賣	二、五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇
計		一〇、四九、〇五〇	二、六、八七〇	

移入品運賃低下に因る利益

種目	價格	利益額	利益率
魚類	七八、二五三	一五、六五〇	平均 二〇%
砂糖	二五、六一一	五、一二二	
味噌醬油	一〇、五六七	二、一一三	
酒類	八七、二六六	一七、四五三	
穀類	一一、六三三	二二、三二六	
石油	五、二八八	一、〇五七	
吳服類	八二、三〇〇	一六、四六〇	
日用雜貨	五八、〇〇〇	一一、六〇六	
計	四五八、九五〇	九一、七八七	

移入品運賃低下に因る利益率の算定に就いては大體本路線改良前後に於ける物價下落の實例を參考として受益額を算出せるものにして、次の如く大體、

種目	改良前	改良後
醬油	一升 六〇錢	三〇錢
味噌	一貫 八〇錢	五五錢
米	一升 三五錢	二七錢
石油	一罐 四圓九〇錢	三圓四〇錢

となりたる事實に依り平均二〇%の利益あるものとして算出せり。

尙本路線の改良に因り自動車運輸の可能となりたる結果、その經濟的發展は次表に示せる如く生産貨物の顯著なる増加をみるに至れり。

生産額増加比較

種目	改良前生産高	改良後生産高	増加額
椎、革	七六、四三斤	一〇九、二〇斤	三二、七六斤
木炭	八七、六四斤	二四六、二六斤	一五八、六二斤
木材	三〇、〇四斤	五二、九六斤	二二、九二斤
粟實	七、五八石	九四、八五石	八七、二七石

(二) 土地價格の騰貴に因る利益 三、四五二、九九五圓
本路線の改良に因り沿道關係町村に於ける地價は次の如く騰貴をみるに至れり。

土地價格比較表

地目	改良前	改良後	騰貴額			
地積	單價	價格	單價	價格	單價	價格
田	五、三〇〇	一、六六〇	一、〇〇〇	一、六六〇	五、三〇〇	二〇、〇〇〇

烟	1,150,000	2,650,000	2,200,000	3,350,000	500,000	2,850,000
山林	8,000	100	800,000	500	1,100,000	2,400,000
宅地	113,000	26,000	1,200,000	1,200,000	101,700	3,450,000
計						10,000,000

其の他金額に算出し得ざる利益

- 一、交通所要時間の短縮
- 一、醫療機關に對する受益
- 一、兒童通學の利便
- 一、文化生活の享受

(二七) (未記載)

(二八)

路線名	龍神南部線
改良區間	自和歌山縣日高郡上南部村 至同 縣同 郡龍神村
延長	二五、〇六八米
有效幅員	三米乃至三米五〇
路面構造	砂利道

説 苑

工 費 一、二〇、六〇〇圓

竣工年月 昭和九年十一月

改良に因る效果

(一) 物貨輸出運賃低下に因る利益

一ヶ年 二、三九五圓

算出の基礎

イ、木炭及雜貨運賃の低下 一、一七〇圓

本路線改良前に於ては、龍神村方面より南部町へ木炭及雜貨の搬出に要する運賃は木炭一〇「キロ」入一依に付二三錢雜貨一貫に付二三錢を要したるも本路線の改良に因り、此等運賃は、即ち木炭一二錢となり、一一錢の輕減、雜貨六錢となり一七錢の輕減をみるに至りたる爲、木炭搬出年六、〇〇〇依に對し六六〇圓雜貨三、〇〇〇貫に對し五一〇圓計一、一七〇圓の利益となれり。

ロ、米雜貨運賃輕減 一、二二五圓

南部町より下山路村に搬出さる、米及雜貨運賃は本

路線の改良前に於ては米一石に付二圓五〇錢、雜貨一貫に付六錢五厘を要したるも、改良に因り此等運賃は即ち米一圓二〇錢となり一圓三〇錢の輕減、雜貨四錢となり二錢五厘の輕減をみるに至りたる爲米搬出年二五〇俵に對し三二五圓、雜貨三六、〇〇〇貫に對し九〇〇圓計一、二二五圓の利益となれり。

(二) 物貨移入運賃低下に因る利益

一ヶ年 一八、三六〇圓

算出の基礎

イ、本路線の改良前、南部町に移入さるゝ米、雜貨に對する運賃は米一石に付五圓、雜貨一貫に付一四錢を要したるも道路の改良に因り此が運賃は米、一圓六〇錢となり三圓四〇錢の輕減、雜貨五錢となり九錢の輕減をみるに至りたるため米移入年六〇〇石に對し二、〇四〇圓、雜貨移入年、四八、〇〇〇貫に對し四、三二〇圓計一ヶ年六、三六〇圓の利益となれり。

ロ、米移入運賃低下 一二、〇〇〇圓

本路線改良前、南部町龍神村間に於ける物資の輸送

は貨物自動車に依るは不可能にして殆ど牛馬車或ひは人肩に依りたるも道路の改良に依り、貨物自動車に依る物資の輸送可能となるに及び、從來米一石八圓雜貨一貫二〇錢の運賃を要したるも、米二圓となり六圓の輕減、雜貨六錢八厘となり一三錢二厘の輕減をみるに至りたる爲米移入年九〇〇石に對し五、四〇〇圓、雜貨年五〇、〇〇〇貫に對し六、六〇〇圓、計一ヶ年、一二、〇〇〇圓の利益となれり。

右(一)(二)の合計 二〇、七五五圓

其の他金額に算出し得ざる利益

- 一、交通便利の増大
- 一、産業の開發
- 一、醫師招聘容易迅速
- 一、文化の發展